



ジョンソン基地と ハイドパーク展 アメリカ文化 に触れた頃

平成24年 **11月3日祝** ~ 平成25年 **1月14日祝**

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

狭山市立博物館

〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山 1-23-1
TEL.04-2955-3804 FAX.04-2955-3811



<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/>
*ご来館の際は、電車・バスのご利用が便利です。

入館料 * () は 20名以上団体料金
一般 150円 (100円) 高・大生 100円 (60円) 小・中生 50円 (30円)

【休館日】
祝日を除く月曜日

12/25(火)
12/27(木)～1/4(金)

【入場無料の日】

11/1(木)～7(水) 小中学生無料
(5日は休館)

11/14(水) どなたも無料

開催にあたって

かつて、狭山市(旧入間川町)と入間市(旧豊岡町)にまたがって、陸軍航空士官学校がありました。そこに戦後はGHQが進駐してジョンソン基地となり、博物館のある狭山稲荷山公園には多くの将校用住宅が建ち並び、ハイドパークと呼ばれました。ハイドパークや基地周辺に建てられた住宅はハウスと通称され、ジョンソン基地の返還後には芸術家の卵の若者達が暮らし、デザイナーやイラストレーター、ミュージシャンとして、後の時代に大きな影響を与えた人たちが多く輩出されました。

今回の企画展では、徐々に忘れられつつある近現代の狭山の歴史を、写真資料や実物資料とともに、当時を知る方たちの貴重な証言を交えて振り返ります。

平成24年11月 狭山市立博物館



EVENT

講演会 **当主が語る接收当時の思い出** 入間市博物館共催

〔日 時〕 11月17日(土) 13時30分～15時
 〔講 師〕 石川嘉彦氏、染井佳夫氏
 〔会 場〕 旧石川組製糸西洋館(入間市河原町13-13)
 〔定 員〕 30人
 〔参加費〕 無料
 〔申込み〕 10月18日(木)9時から電話で狭山市立博物館へ
 TEL 2955-3804 ※入間市博物館では受け付けません。

体験学習 **「ジョンソン基地とハイドパーク」にちなんだ茶席**

〔日 時〕 12月1日(土) 10時～15時
 〔講 師〕 狭山市茶道連盟
 〔会 場〕 博物館 1階研修・講義室、2階茶室
 〔定 員〕 150人
 〔参加費〕 お茶券400円(2席)。別途、入館料が必要。
 〔申込み〕 10月17日(水)から11月11日(日)までに費用を持って狭山市立博物館へ。ただし、定員に達し次第、締め切ります。

講演会 **津村節子講演会 狭山の青春** 男女共同参画センター共催

〔日 時〕 12月2日(日) 14時～15時
 〔講 師〕 津村節子氏
 ◆略 歴 小説家。戦時中、入間川町(現・狭山市)に疎開。当時の様子を小説『星祭りの町』に描く。昭和40年「玩具」で第53回芥川賞受賞。平成23年川端康成文学賞及び菊池寛賞受賞。
 (星祭りの町あらすじ) 終戦直後の入間川町での生活を綴った自伝的小説。進駐軍が間近にいる日々への不安や戸惑い、のどかさを残しながらも活気づく町の様子などを鮮やかに描いた長編。
 〔会 場〕 博物館1階 舞い舞いホール
 〔定 員〕 100人
 〔参加費〕 無料(博物館の入館料が必要)
 〔申込み〕 11月16日(金)9時から電話で狭山市立博物館へ
 TEL 2955-3804

トークライブ **FLAT HOUSE meeting 古い平屋生活の魅力**

〔日 時〕 12月23日(日・祝) 13時30分～14時30分
 〔講 師〕 アラタ・クールハンド氏
 ◆略 歴 「米軍ハウス」等を8年に渡り取材、2009年に中央公論新社より『FLAT HOUSE LIFE』を刊行。
 〔会 場〕 米軍ハウス(企画展第2会場)
 〔定 員〕 30人
 〔参加費〕 無料(博物館の入館料が必要)
 〔申込み〕 11月27日(火)9時から電話で狭山市立博物館へ
 TEL 2955-3804

体験学習 **初めての香席 ～初春の雅なひととき**

〔日 時〕 平成25年1月14日(月・祝)
 ①11時～12時45分
 秋期企画展「ジョンソン基地とハイドパーク」にちなんだ香席
 ②14時～15時45分
 春期企画展「収蔵品展」にちなんだ香席
 〔講 師〕 香道古心流・師範 黒須秋桜氏
 〔会 場〕 博物館1階 研修・講義室
 〔定 員〕 各回60名
 〔参加費〕 一席1,500円、中学生以下は700円
 〔申込み〕 11月28日(水)9時から電話で狭山市立博物館へ
 TEL 2955-3804

米軍ハウスを再現

第2会場として、博物館近くの米軍ハウスを見学できるようにしました。公開するのは、会期中の10時～15時です。
 ※イベントの際には見学できないことがあります。

- ・博物館内のレストランで、企画展にちなんだ料理をご用意します。
- ・懐かしいデザインの瓶入りコカ・コーラも、レトロな自動販売機で販売します。
- ・企画展関連グッズも色々取り揃えています。お土産やプレゼントにいかがですか？





Come On
to my
House!

ジョンソン基地と ハイドパーク展

[アメリカ文化に触れた頃]

平成24年11月3日～平成25年1月14日

狭山市立博物館

<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/>

開催にあたって

かつて、狭山市(旧入間川町)と入間市(旧豊岡町)にまたがって、陸軍航空士官学校がありました。そこに戦後はアメリカ第5空軍が進駐してジョンソン基地となり、博物館のある狭山稲荷山公園には多くの将校用住宅が建ち並び、ハイドパークと呼ばれました。ハイドパークや基地周辺に建てられた住宅はハウスと通称され、ジョンソン基地の返還後には芸術家の卵の若者達が暮らし、デザイナーやイラストレーター、ミュージシャンとして、後の時代に大きな影響を与えた人たちが多く輩出されました。

今回の企画展では、徐々に忘れられつつある近現代の狭山の歴史を、写真資料や実物資料とともに、当時を知る方たちの貴重な証言を交えて振り返ります。

企画展開催にあたり、多くの方々に資料提供や聞き取り調査等についてのご協力をいただきました。この場を借りて、心からお礼を申し上げます。

平成24年11月 狭山市立博物館



目次

第1部 大正天皇行幸と稲荷山公園誕生	1
第2部 陸軍航空士官学校	2
第3部 ジョンソン基地とハイドパーク	
1. アメリカ第5空軍の進駐	3
2. 接收	4
3. 基地で働く	5
4. 住宅地区	8
5. 地域との交流	10
第4部 返還	
1. 1960～70年代	11
2. 現在	12
主な参考文献／協力者・協力機関一覧	13

凡例

- 1.本書は、狭山市立博物館が平成24年11月3日(土・祝)から平成25年1月14日(月・祝)までを会期として開催する企画展「ジョンソン基地とハイドパーク-アメリカ文化に触れた頃-」のパンフレットである。
- 2.展示順序とパンフレット掲載順序は概ね一致するが、図版は展示資料の一部であり、本書に図版を掲載していないものもある。
- 3.本展の企画及び本書の編集執筆は、当館学芸員の上田知佐子、小淵良樹が担当した。
- 4.本書に掲載の写真・イラスト等の無断複製、転写、転載(WEBを含む)を禁じる。

第1部

大正天皇行幸と稲荷山公園誕生

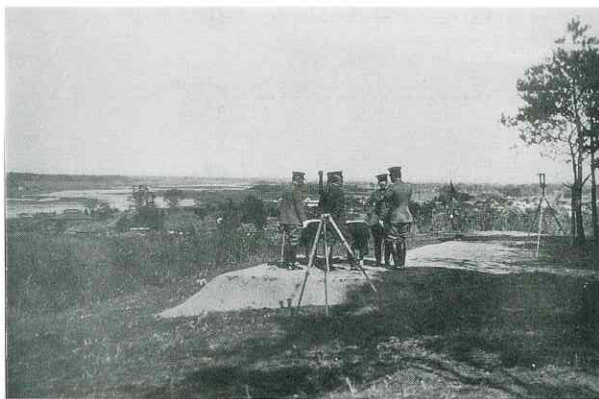
陸軍特別大演習

1912(大正元)年11月16日、大正天皇が統監する陸軍特別大演習が入間川を挟んで行われました。大演習の参加総数は4万8700人余り、軍馬は8200頭にのぼる大軍となりました。

大正天皇は朝5時40分に入間川駅(現狭山市駅)に到着、そこから騎馬で稲荷山の野立所(野外に設けた天皇の休息所)に向かわれました。現在の中央児童館脇の階段を上ったあたりです。稲荷山は入間川の河川敷が一望でき、飯能方面まで見渡せる、野立所としては絶好の場所でした。



入間川町を訪れた大正天皇



稲荷山における大正天皇の統監

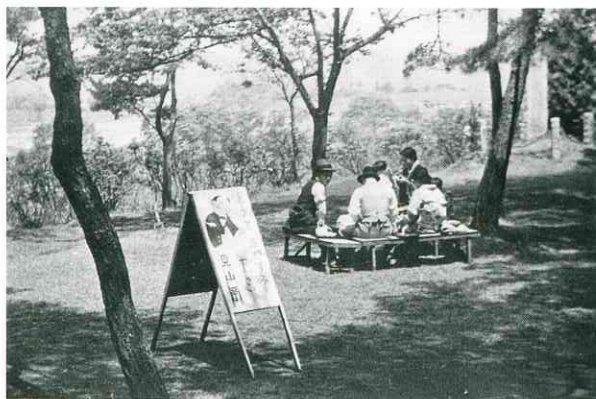


陸軍特別大演習の様子

稲荷山公園誕生

大演習からちょうど1年後の11月16日、大正天皇の行幸を記念した碑の除幕式が行われました。碑は現在、中央児童館脇の階段を上ってすぐのところにあります。除幕式後の町議会で、稲荷山付近を記念公園にすることが満場一致で可決されました。

稲荷山は春のつつじ、夏の緑陰、秋の萩、冬の赤松林と、四季を通じて風光明媚な場所で、行楽客や近隣の小学生の遠足地として大いに賑わいました。(『狭山市史 通史編Ⅱ』)



大正末頃の稲荷山公園(右奥に御野立所の碑が見える)



遠足の児童で賑わう戦前の稲荷山公園

当時を知る方の記憶

- 稲荷山公園には、もっともっとつつじがたくさん咲いてね、今の石心会の方へずーっとね、私の背よりも高いようなつつじがいっぱい咲いて、きれいだったんですよ。

(大正14年生まれ的女性より聞き取り・昭和5~6年頃の様子)

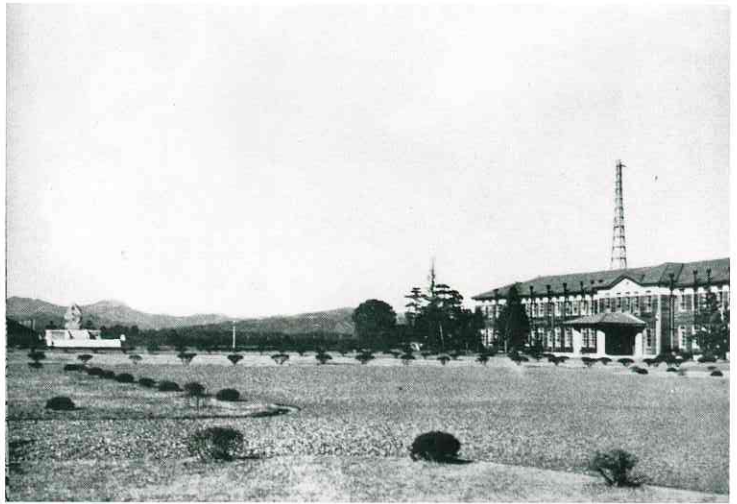
- 稲荷山配水場のところはタンクがなくて真ん中が広場で、つつじ祭りや桜祭りの時は、ぼんぼりを立てて芸者が道中囃子に来てね、我々が子どもの時は賑やかだったんだよ。

(大正13年生まれの男性より聞き取り・昭和8~10年頃の様子)

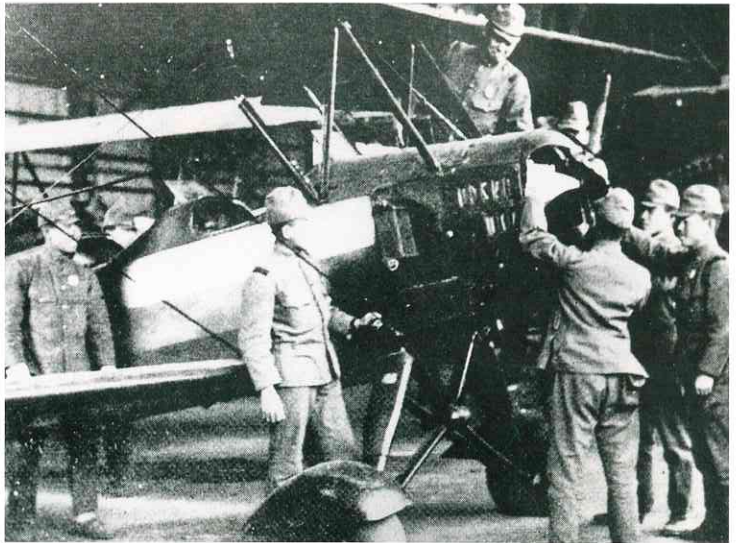
陸軍は入間川町(現狭山市)と豊岡町(現入間市)の山林、農地など10万坪(約33ヘクター)を航空士官学校建設用地として買収し工事に着手、1938(昭和13)年12月に陸軍航空士官学校が開校し、1941(昭和16)年3月には昭和天皇により「修武台」と命名されました。

1939(昭和14)年の卒業式からは、行幸が始まりました。原宿駅を出発したお召し列車は武蔵高萩駅(現日高市)に停車し、日光街道から航空士官学校までは御料車で行幸という道順でした。

沿道にあたるのは入間川町と水富村でした。水富村では、村長以下、青年団、青年学校生徒、小学生など、各種団体あわせて1700名以上が、日光街道両側の台地上から豊水橋までの要所に位置して、行幸の1時間前から横2列の隊形を作っていました。御料車が隊列の60メートル手前まで来た時に「最敬礼」の号令がかかり、隊列を15メートル離れた時に「直れ」の号令がかかりました。(『狭山市史 通史編Ⅱ』ほか)



陸軍航空士官学校



航空士官学校での実習授業



卒業式の様子

当時を知る方の記憶

- 昔は日高にも飛行場があって、そこと航空士官学校を結び道を行幸道路って言ったんです。天皇陛下が日高の飛行場から、こっちの航空士官学校へ行幸する時、私たちは盛装して…袴を穿いて、長い袂の着物を着てね、根岸の坂へ小学校の生徒がみんな並んだの。それで、天皇陛下が向こうから見ると最敬礼でね、通り過ぎてから「直れ」って言うんだから、天皇陛下の車がどんだか分からないし、陛下の顔もぜんぜん見えないのよ。(昭和9年生まれ的女性より聞き取り・昭和17年頃の出来事)

第3部 ジョンソン基地とハイドパーク

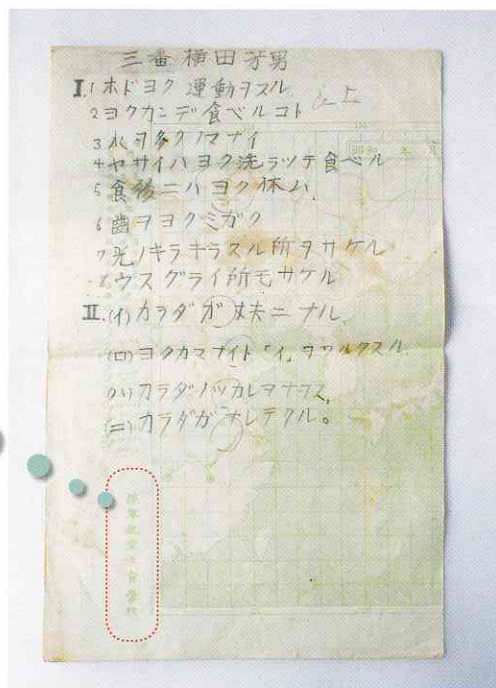
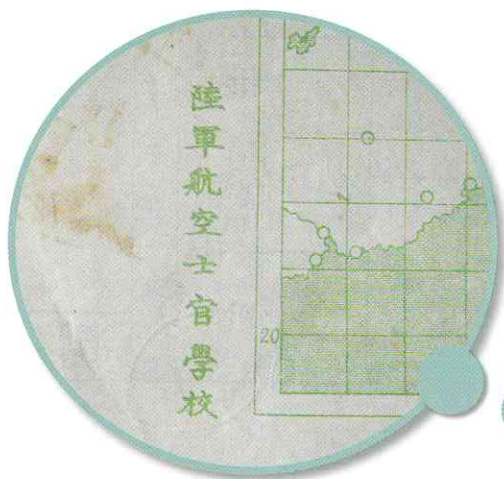
1. アメリカ第5空軍の進駐

1945(昭和20)年9月14日、第5空軍の先遣隊約800名がトラックやジープなどの車両を連ねて修武台に入り、16日には第二陣2000名も進駐して来ました。

陸軍航空士官学校の名称は、進駐から5ヶ月余り経った1946(昭和21)年2月、「ジョンソン空軍基地」と改められました。ジョンソンという名称は、アメリカ空軍第49戦闘群のパイロットとして活躍したジェラルド.R.ジョンソン大佐の名前にちなんでいます。(『狭山市史 通史編Ⅱ』『埼玉県渉外労務管理史』ほか)



ジョンソン基地第2ゲート



航空士官学校の反古書類
紙不足のため、小学生のノートとして再利用されている

当時を知る方の記憶

- ・[入間市の町屋通り沿いの出来事]

戦後は着るものも燃料も何もなかったから、「基地の中にある防空壕から、いるものを掘って持って行ってもいいです」という回覧板が回った時に、リヤカーを借りて行くことになったんです。父が先頭で男3~4人で、さあ行こうと思ったら、向こうからジープやらトラックやら、どんどんどんどん来て、「これじゃ、もう通りへ出られないよ。」って言って、リヤカーを片づけて。アメリカ兵はリラックスした格好でタバコを吸いながら乗ってました。今の映画館のところから坂を上って行ったから、士官学校へ進駐して来たんだな、と思って。前の日に行った人は、いろいろ取って来られてよかったんだろうけど。回覧板には、絶対アメリカ兵の前を突っ切っちゃダメだとか、そんなことまで書いてありました。

(昭和3年生まれの男性より聞き取り)

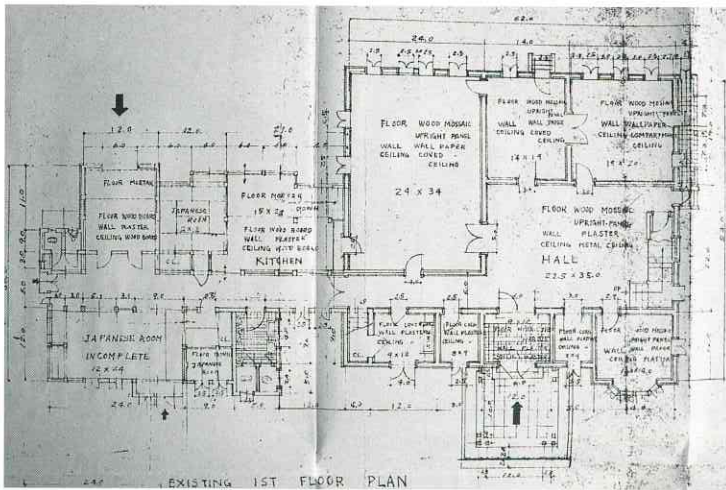
2. 接 収

昭和20年10月、ジョンソン基地拡張による収収が入間川町と入間村を対象に実施されました。その場所は、入間川町は現在の狭山稲荷山公園を中心とした一帯で約21ヘクタール、入間村は滑走路に隣接する山林で約14.3ヘクタールでした。

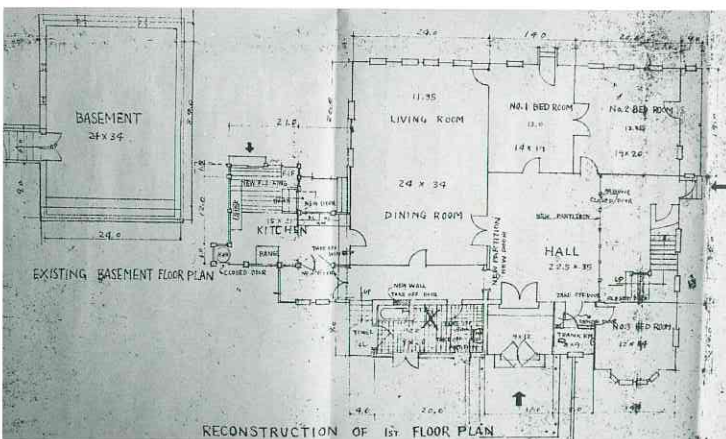
また、収収を受けた建物のうち現存するものとして、隣の豊岡町(現入間市)にある旧石川組製糸西洋館があり、こちらは将校用住宅として使用されました。(『狭山市史 通史編Ⅱ』ほか)



旧石川組製糸西洋館外観



旧石川組製糸西洋館内部図面(1948年7月)



旧石川組製糸西洋館内部図面(1948年8月)

7月の図面と見比べると、壁の撤去や新設など、改造の施されているのが分かる

当時を知る方の記憶

- 鶉ノ木の古老に聞くと、米軍が進駐してきて、今の狭山稲荷山公園のところに全部テープを張ってしまったということだね。それで、どうしても必要な立木は2~3日のうちに伐採してもいいと言っただけど、テープが張ってあって、米軍の兵隊が要所要所に立ってたから、その当時じゃ、とてもじゃないけど、中へ入って立木を切るなんてできなかったという話を聞きました。だから、いま松の木とか相当残ってるでしょ。結局そのために、伐採できないで残っちゃったと。私たちはそう聞いてましたけどね。
(昭和2年生まれの男性より聞き取り)

3. 基地で働く

1945(昭和20)年9月、アメリカ第5空軍の進駐と同時に労務局が設置されました。業務内容は、労務者の採用と不採用の決定、解雇や退職の手続き、タイムシートの作成、休暇の承認などでした。『埼玉県渉外労務管理史』



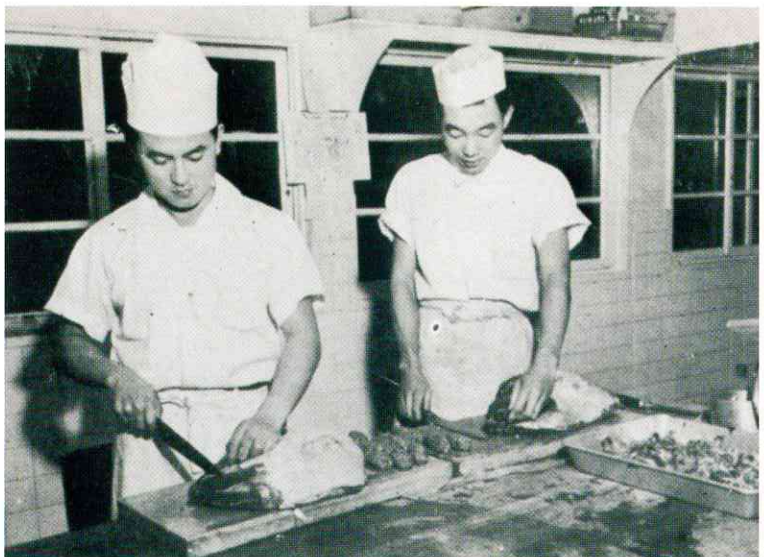
将校クラブのバー



将校クラブの朝食メニュー



守衛が身につけた警棒



下士官クラブの食堂で働く人

当時を知る方の記憶

- 当時はタイムカードってありましてね。いっぱいあったから、自分の分を見つけるのが大変だったんです。みんなリボンや何かをつけたりして見分けがつくようにしてました。じゃないとね、見つけてる間に時間が過ぎちゃうから、時間が赤い数字になって遅刻になっちゃうんです。タイムカードの機械は、4台くらいあったかな。もうみんな一散に行って、ガチャガチャガチャガチャね。もたもたしてると突き飛ばされちゃうんです。

(昭和7年生まれ男性より聞き取り・昭和23～24年頃の様子)

- 戦後、今の築地の中央市場をGHQが接収してランドリーにしたんですよ。そこで半年くらい働いたんです。その後、こちらでハウスメイドとして住み込みで5年くらい働いて、次にモータープール(自動車の整備をする部隊)でタイピストとして働いて、そこでますます英語を覚えたんです。

(昭和2年生まれ女性より聞き取り)

- 学生時代、NCOクラブ(下士官クラブ)でアルバイトをしました。入口のクロークでコートを預かったり、タバコやポップコーンを売ったりっていうのを一人でやりました。タバコは外国製だけで、ラッキーストライク、ウinston、セイラム、キャメル、チェスターフィールドとか、葉巻はホワイトアウルがありましたね。時間は15時に入って22時過ぎまでで、仕事が終わるとお金を締めて、クラブ事務所へ持って行くんです。食事は、仕事の前にクラブ内の日本人食堂で済ませてました。賄いのおじさんが2人いて、10円払って、おかわり自由のご飯とおかずを食べました。10円でそれだけ食べられるのは、その頃でも安かったですね。学食の素うどんが10円でしたから。

(昭和14年生まれ男性より聞き取り・昭和32～33年頃の様子)

- ジョンソンの将校クラブには素晴らしいバーがあったんです。カウンターはカーブを描いてて、20メートルか25メートルくらいあったんですよ。バーテンダーの背面は全部鏡張りなんです。それで、前が全部大理石のフロアになってました。バーテンダーは左側から1番2番3番…と並んでいて、お客さんは必ず自分の好きなバーテンダーのところへ座ります。そうすると、そのバーテンダーとは「何にしましょうか」という会話は全くないんですよ。入って来たら、もう座る前にドリンクを作ってね、ドーンと出す、そういう風になってました。ジョンソンには、ポップ・ホープやジェーン・マンスフィールドも来ましたよ。背の高い人でね、それが高いヒールを履くから、余計にスラッと見えまして。

(昭和5年生まれ男性より聞き取り・昭和25年頃の様子)

- ジョンソンには昭和25年から7～8年いて、守衛の仕事をしてました。それから転勤になって、練馬のグラントハイツというところで5年くらい働いて、その後は横田へ定年までずっと通ってたんです。

(大正10年生まれのご主人について、奥さんより聞き取り)

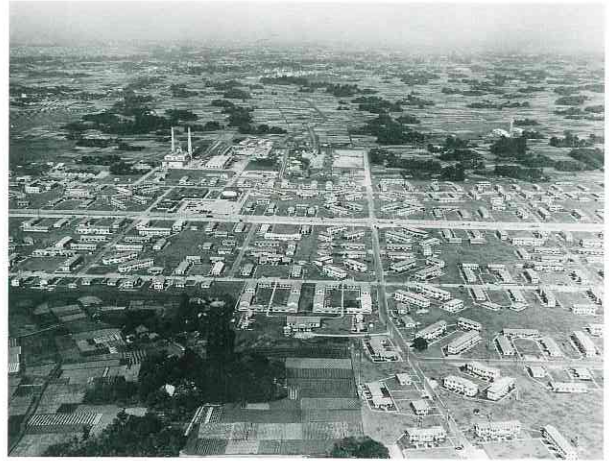
- カミサリー(commisary 食料中心のミニスーパー)で働き始めたのは戦後半年くらい経った頃で、果物、パン、ケーキ、缶詰、冷凍食品もあったよ。食べ物のほかに箸とかモップとか、なにしろ3000種類くらいの品物があって、肉なんかはぜんぶ本国から冷凍船で来るし、野菜は府中の飛行場の跡地に水耕栽培の畑があって、それを府中から毎日持って来て売ってたんだよ。免税品だからね、毎月、月末にインヴェントリー(inventory)って言って、決算、在庫調べがあるんだ。司令部の方から将校が検査官として来て、一緒に冷蔵庫の中に入って、端から全部カウントするわけ。牛肉なんか体半分がカチカチに冷凍して吊るしてあるでしょ。その中に電卓を持って行って合計して。2～3時間かかるから、米軍から支給された防寒具を着て、内側に毛皮が生えてる防寒靴を履くんだよ。

11月の感謝祭、それから12月のクリスマス、ああいう時は他の部署は兵隊がご馳走してくれてパーティーしてるんだけど、カミサリーは徹夜するほど忙しいんだよ。七面鳥を売るだけだって大変でね。10月中旬にオーダーするんだ、芝浦に。芝浦には、日本に来てる米軍基地の食料品とか日用品の集積所があるわけ。

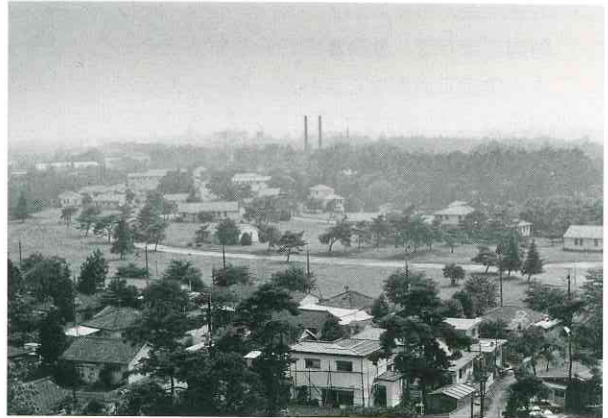
(大正13年生まれ男性より聞き取り)

4. 住宅地区

GHQは日本政府に対し、占領軍将兵の家族用住宅の建設を命じ、1946(昭和21)年5月、入間川町には244戸の家族用住宅を建設する命令が下されました。(ただし、1950年10月調査では339戸が建設されています)。家族用住宅は基地の内外にあり、現在の狭山稲荷山公園はハイドパークと呼ばれた住宅地区でした。同じように家族用住宅の建設された場所として、県内では和光市のキャンプ・ドレイク、都内ではグラントハイツ(現在の練馬区光が丘)、ワシントンハイツ(現在の代々木公園やHNK放送センターを含む地域)などがあり、いずれの場所も、フェンスの外から垣間見る生活は、日本人にとって別天地のようでした。(['占領軍調達史』『占領軍住宅の記録(上)』ほか)



グラントハイツ 写真/アメリカ国立公文書館所蔵



ハイドパーク



ワシントンハイツ



建設中のハウス



ハイドパークのブロンズ看板

当時を知る方の記憶



芝生の上でくつろぐ家族



基地内のプール



基地内のB X (売店)

• ハイドパークの中のおうちは、キッチンがなにしろ広いし、流し台も大きくてお湯が出て、大きな作業台のある今で言うアイランド型で、映画で見るようでしたね。部屋も広くて、ダブルベッドを置いてもまだ余裕があって。ベッドメイクは厳しかったですね。角をちゃんと三角に折って入れて。真っ白なシーツがピーンとなっているか、はね返るか、奥さんが押してみても「トゥナイト、グッド」なんてね。うまくできてない時は「ダメダメネ」っていうの。洗濯機は全自動でしたね。

ビンゴだとか、お友達とお食事会だとかっていうと、もう素晴らしい恰好をして、イブニングドレスにキラキラしたものをいっぱいつけて、歌うように「グッドバイ」とか言いながら出て行くんです。

(昭和10年生まれ的女性より聞き取り・昭和30年前後の様子)

• ハイドパークは家族が住んでる住宅だけですから、基地の中の学校へ通う時はスクールバスでした。基地の中には映画館も野球場もクラブもあったし、病院も銀行もありました。何でも揃ってるんです。基地の中へは奥さんのお供をして、買い物に行きました。今で言うスーパーみたいな所、あの頃はカミサリーって言いました。(昭和4年生まれ的女性より聞き取り・昭和26~28年頃の様子)

• ジョンソン基地の滑走路でオートバイレースをしましたよ。滑走路の端の所に、フェンスがありますね?あのちょっと先の方に、まだうんと土が、山の崩しかけみたいのがありますね、その前に広い道があって、そこでオートバイレースをやったんです。オートバイは10台ぐらい回って、休んでる人もいましたね。見る人は、危ないから山みたいところに登って見てました。そんなに大きいオートバイじゃなかったですね、ブーブーウーウーって、ひどく埃が立ってました。今のような完成された道じゃなかったですから。(大正14年生まれ的女性より聞き取り・昭和38年頃の出来事)

• 大学生の頃、基地の中のお宅へ毎週のようにお邪魔してたんです、自転車で。英会話の勉強も兼ねて。基地のゲートの中に電話があって、守衛さんが電話をかけて、名前他に「背は何フィートで目は黒、お宅に行きたいって言うんですけど」というようなことを確認してるらしいんです。それで、「OK、じゃあ、行っていいです」って。基地の中をずっと左奥の方へ入って行くとジムがあったりして広いところを進んで、ハイドパークと違って起伏がないので、分かりやすかったです。確か壁にハウスナンバーも書いてありましたしね。8人の子どもがいる、とてもフレンドリーな家族でした。(昭和19年生まれ的女性・昭和37~40年頃の様子)

5. 地域との交流

ジョンソン基地の兵員・隊員により発行されていた週刊公式空軍新聞The Gunnerには、もっと日本のことを紹介してほしいという要望が多く寄せられ、アメリカ兵やその家族がつつじ祭りや七夕祭りを見物に来る姿も見られました。また、地元警察と協力しての交通安全運動や、貧しい家庭や孤児の施設を慰問するといった活動も行っていました。アメリカ人と日本人の子ども同士が遊んだり喧嘩したりといったことも、ひとつの交流と言えるでしょう。



基地内で発行された英字新聞



七夕祭りを見物



日米共同交通安全運動



独立記念日のカーニバル 写真/野上眞宏

当時を知る方の記憶

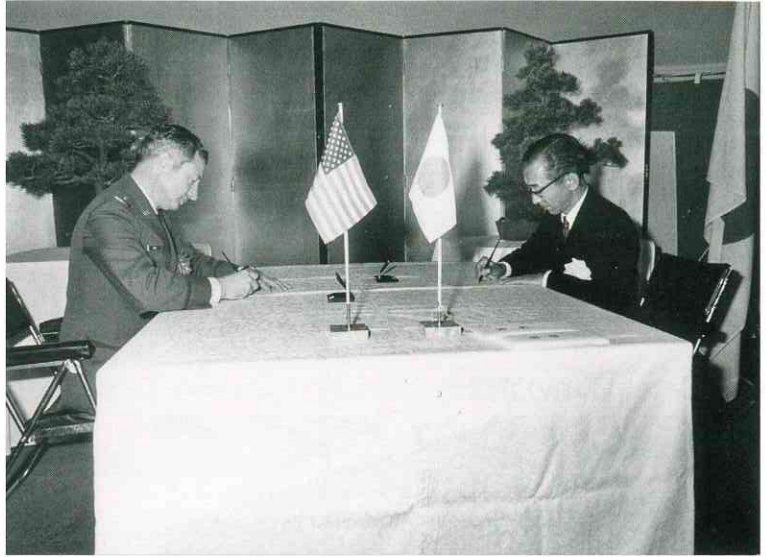
- 小学生の頃毎年、クリスマスの時にシアターに行きました。向こうの人たちが、キリスト生誕の劇みたいのをやってくれたり、歌を歌ってくれたりして、私たち入間川小学校の子どもたちは、「もろびとこぞりて」だとか「神の御子は」とか、日本語で練習を重ねて歌ったりして。夕方暗くなりかける頃に外のものすごく大きなモミの木がイルミネーションで輝いてて、そんなのって初めてですよ、子ども心に別世界でした。そこにみんな集まって、ココアが何か熱い飲み物をカップに一杯ずつもらって、サンタさんの格好をした兵隊さんからお菓子の入った長靴をもらって。学校からは、みんなで歩いて行ったんです。大勢でしたよ、1クラス50人ぐらいいて6クラスあったので、1学年だけでも300人、大きなシアターでした。

(昭和19年生まれの女性・昭和29年頃の出来事)

第4部 返 還

1. 1960~70年代

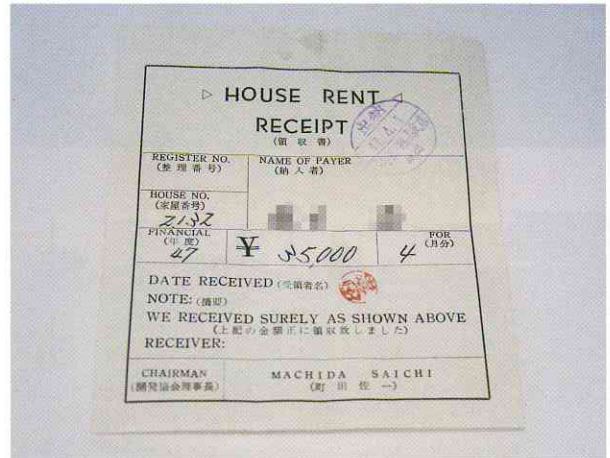
ジョンソン基地の返還と前後して、全国各地から多くの若者たちが狭山のハウスに移り住みました。数多く立ち並ぶハウスとハイドパークの存在が、日本にいながらにしてアメリカの空気を感じさせ、彼らの芸術性を刺激して、ミュージシャンやデザイナー、イラストレーターといった芸術の分野で活躍する人物が多く輩出されることとなりました。



ジョンソン飛行場返還式



細野晴臣(アメリカ村) 写真/野上真宏



ハウス契約書



小坂 忠(アメリカ村) 写真/野上真宏

当時を知る方の記憶

- アメリカ村の細野晴臣宅で録音した「HOSONO HOUSE」は、日本で最初のハウスレコーディング(スタジオ以外の場所へ機材を持ち込んで録音すること)で、ハウスは広かったから、機械を持ち込んで音を録ったんですよ。それ以後ですね、日本でもそういうことをやるようになったのは。

(昭和19年生まれの男性より聞き取り・昭和48年頃の出来事)

2. 現在

航空士官学校やジョンソン基地で使われた建造物は、航空自衛隊入間基地と東京家政大学の敷地内に、わずかな数が残るのみです。

ハイドパーク(現狭山稲荷山公園)内のハウスも、返還とともにほとんどが撤去され、最後まで残されていた9棟も2001(平成13)年にすべて取り壊されて、姿を消しました。

この場所にアメリカの軍人軍属とその家族が暮らしたことを偲ばせるのは、公園内の道路に付属した車寄せや苔むした階段など、知らなければ見過ごしてしまうような、ささやかな遺構のみです。それらの小さな痕跡が、良くも悪くも、この町の様相を一変させる出来事だった米軍進駐を今に伝えています。

ジョンソン基地の遺構



入間基地に残るジョンソン基地時代の建物

ハイドパーク遺構



車寄せ



入間基地内、稲荷山公園駅近くに残る引き込み線の跡



階段



東京家政大に残るジョンソン基地時代の建物



アプローチ

主な参考文献

- 『いなりやまの昔を紡ぐ』グループ・いなりやま 2005年
 『入間市史調査報告書 第2集 新聞記事目録』入間市史編さん室 1986年
 『入間市史 通史編』入間市史編さん室／編集 入間市 1994年
 『埼玉県渉外労務管理史一駐留軍従業員30年史』埼玉県企画財政部企画総務課 1983年
 『狭山市史 現代資料編』狭山市 1984年
 『狭山市史 通史編 2』狭山市 1996年
 『狭山史談 第5号』埼玉県郷土文化会狭山支部 1993年
 『狭山40年のあゆみ』狭山市立博物館 1994年
 『女中がいた昭和』小泉和子 河出書房新社 2012年
 『ジョンソン基地の返還運動経過と返還跡地利用に関する運動経過についてー特にハイドパーク地区を中心にー』
 狭山市 1979年
 『写真が語る狭山のあゆみ』高橋利三郎／撮影 今坂柳二・栗原忠治・高橋光昭／監修 幹書房 2005年
 『新編埼玉県史 資料編20 近代・現代2』埼玉県 1987年
 『図説占領下の東京』佐藤洋一 河出書房新社 2006年
 『占領軍住宅の記録(上)(下)日本の生活スタイルの原点となったデペンデントハウス 住まい学大系』
 小泉和子 住まいの図書館出版局 1999年
 『占領軍調達史 統計篇』占領軍調達史編纂委員会／編 調達庁総務部調査課 1955年
 『占領軍調達史 占領軍調達の基調』同 1956年
 『占領軍調達史 部門篇 1 芸能・需品・管材編』同 1957年
 『占領軍調達史 部門篇 2 役務(サービス)』同 1958年
 『占領軍調達史 部門篇 3 工事』同 1959年
 『デペンデントハウス：連合軍家族用住宅集区』商工省工芸指導所 編 技術資料刊行会 1948年
 『デペンデントハウス：連合軍家族用住宅集区. 建築篇・家具篇・什器篇』工芸指導所 編 技術資料刊行会 1948年
 『Happy (1)(2) - Snapshot diary:Tokyo1968-』野上真宏 スペースシャワーネットワーク 2002年
 『FLAT HOUSE LIFEー米軍ハウス、文化住宅、古民家…古くて新しい「平屋暮らし」のすすめ』
 アラタ・クールハンド マーブルトロン 中央公論新社 2009年
 『BRUTUS 2012.5/15号』マガジンハウス
 『星祭りの町』津村節子 新潮社 1996年
 『目で見る所沢・狭山・入間の100年』大館右喜／編 郷土出版社 2002年
 『ヤァ!ヤァ!ヤァ!ビートルズがやって来たー伝説の呼び屋・永島達司の生涯』野地秩嘉 幻冬舎 1999年
 『陸軍航空士官学校』陸軍航空士官学校史刊行会 1996年
 『ワシントンハイツーGHQが東京に刻んだ戦後』秋尾沙戸子 新潮社 2009年
 『ワシントンハイツの旋風』山本一力 講談社 2003年

協力者・協力機関一覧 (五十音順・敬称略)

協力者

浅田 せつ	浅田 春吉	麻田 浩	荒井 英郎(株式会社ニックス)	石川 紘一郎	石川 雄一		
石川 嘉彦	石川 洋子	伊藤 方哉	井上 裕之(愛宕骨董市)	岩澤 昭	植野瑛子(故人)	内山 清高	
遠藤十九子	大澤 祥二	大野 昭治	大野 松茂	大野 稔	小川喜久子	岡野 敦子	小高希与子
小高 喜正	小名木くら	小名木千明	鴨下 和子	木村 正	小山 紗希	斉藤 丑松	斉藤 福子
西念 尚子	相楽進太郎	佐藤 洋子	菅野富士江	関口 和夫	関野 利宏	高橋 三郎	田中 高市
田中美佐子	依木 安男	道見 雅邦	樋田 凡夫	樋田ヤエ子	中島 太意(ポスターデザイン)		
中島やす子	中條 功	野口 照章	深谷 賢侊	星野 厚雄	細井まり子	巻田 アキ	巻田 一成
増子 登	増田 博行	蓑輪 敏子	本橋 一治	森田 敏明(故人)	森谷 秋男	山下 徹	
横田 芳男	吉田 義男	Chico Trujillo	川越CAFE' 1925	ジョンソンカフェ稲荷山	博物館ボランティア		

協力機関

入間市博物館ALIT 航空自衛隊入間基地 埼玉県平和資料館 練馬区立石神井公園ふるさと文化館
 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 西武鉄道株式会社 東京家政大学



狭山市立博物館 平成24年度秋期企画展
ジョンソン基地とハイドパーク -アメリカ文化に触れた頃-

発行日 平成24年11月3日

編集・発行 狭山市立博物館
〒350-1324 埼玉県狭山市稻荷山1-23-1
TEL 04(2955)3804

制作 光版社印刷株式会社